



決め手は、青森県産。

りんご生産情報第9号
(8月7日～8月28日)

令和2年8月6日発表
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



着果量まだ多い！
見直し摘果、もう一回り！！
黒星病の発病葉・発病果の摘み取り処分を!!!

I 概要

8月1日現在の果実肥大は、地域や品種によってバラツキが見られるものの、平年並から平年を上回っている。

園地によって着果量が多い樹が見られる。今一度着果量を点検し、見直し摘果を徹底する。

黒星病の発生は昨年よりも少なく推移している。秋の二次感染や翌年の感染源を減らすために、発病葉・発病果は見つけ次第摘み取り、処分する。

「8月半ば」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で8月15～16日頃に行う。
つがるの落果防止剤（ストップール液剤）の散布は、8月15～20日頃に行う。
台風等による強風に備え、風害防止対策に万全を期す。
熱中症予防には、こまめな休憩と水分の補給をしっかりと行う。

II りんご生産情報

1 果実肥大、作業の進み、病害虫の動き

(1) 果実肥大

8月1日現在の果実肥大は、地域や品種によってバラツキが見られるものの、平年並から平年を上回っている。

果実肥大 (8月1日現在、横径cm、平年比%)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	ふ じ
黒 石 (りんご研究所)	本 年	7.8	7.9	6.6
	平 年	7.0	6.9	6.1
	前 年	6.7	7.2	6.5
	平年比	111	114	108
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本 年	7.7	7.0	6.3
	平 年	7.2	6.8	6.0
	前 年	7.6	7.2	6.7
	平年比	107	103	105
青森市浪岡吉内 (東青地域県民局)	本 年	7.4	-	6.2
	平 年	7.0	-	5.9
	前 年	7.2	-	6.5
	平年比	106	-	105
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本 年	7.6	6.9	6.1
	平 年	7.1	7.1	6.0
	前 年	7.5	7.1	6.8
	平年比	107	97	102
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本 年	7.0	6.4	5.9
	平 年	7.0	6.6	5.9
	前 年	7.3	6.8	6.3
	平年比	100	97	100

※各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測は調査データ

(2) つがるの果実熟度

8月5日現在、黒石では平年と比較して、果重がかなり重い。熟度の進みは、ヨード反応は同程度、糖度及び着色指数はやや低い、酸度、硬度も低いことから、総合的に見て平年並からやや早いと見込まれる。

つがる(無袋)の熟度の進み (調査月日：黒石8月5日)

地 域	年	果 重 (g)	着 色	硬 度 (ポント [°])	糖 度 (brix%)	酸 度 (g/100ml)	ヨード [°] 反 応
黒 石 (りんご研究所)	本年	221	0.1	15.1	10.0	0.357	5.0
	平年	173	0.3	18.0	10.4	0.377	5.0
	前年	158	0.3	17.8	12.0	0.305	4.9

- 注1 着色：指数0～5 大きい数値ほど着色良好
 2 ヨー卜反応：指数0～5 小さい数値ほどでんぷんが少ない
 3 平年は参考値で2002年～2019年までの18か年平均。

(3) 作業の進み (8月4日現在)

見直し摘果、支柱入れ、徒長枝整理が行われている。

(4) 病害虫の動き

(8月5日現在 りんご研究所)

斑点落葉病	感染継続中 無防除の県予察圃での新梢葉の発病葉率 (スターキング) (本年：黒石8月5日1.7%、平年：黒石8月5日11.7%)
褐斑病	無防除での県予察圃で発生増加中
黒星病	感染停滞中
モモシクイガ	成虫の羽化及び産卵継続中
ナシヒメシクイ	第2世代成虫羽化及び産卵継続中
ナミハダニ及び リンゴハダニ	卵～成虫が混在。幼虫～成虫が葉を加害中
リンゴコカクモンハマキ	第1世代幼虫主体
キンモンホソガ	第3世代幼虫主体
クワコナカイガラムシ	第1世代幼虫主体

2 作業の重点

(1) 見直し摘果

見直し摘果が盛んに行われているが、園地によってはまだ着果量が多い樹が見られ、果実品質や翌年の花芽への影響が懸念されるので、今一度着果量を点検し、見直し摘果を徹底する。

見直しにあたっては、ふじや王林等では4頂芽に1果、つがるやジョナゴールドでは3.5頂芽に1果残すことを目安に、小玉果や果形の悪いもの、病虫害被害果を中心に摘果する。なお、摘み取った病虫害被害果は適正に処分する。

(2) 恋空の収穫

熟度の進みは平年並で推移している。

熟期が揃わないので、地色、着色を見て、2～3回くらいに分けて収穫する。

収穫が遅れると果肉の軟化につながるなので、適期に収穫する。

樹上選果作業時に見落としした変形果や病虫害被害果などは山選果で取り除き、良品出荷に努める。

収穫した果実は、高温下に置くと果肉の軟化、油あがり及早くなるので、すみやかに冷蔵施設に搬入する。

(3) 収穫前落果防止剤の使用

つがるなどの早生種の熟度の進みは、平年並からやや早いと見込まれる。なお、落果防止剤の散布時期は、農協等の指導をもとに適期に散布する。

ア ストッポール液剤

ストッポール液剤 1,000倍（展着剤不要）は、未希ライフときおうでは8月10～15日頃、つがるでは8月15～20日頃に単用散布する。使用回数は1回、10a当たり散布量は350～400ℓとする。

ストッポール液剤は葉から吸収されて効果を出すので、葉に十分かかるようにし、葉摘みは散布4～5日後から始める。なお、散布後7日間は収穫できないので注意する。

極端な早期散布や2回散布、着色促進剤との併用などは、果肉の軟化や油あがり及早まるほか、年によっては、裂果やつる元の腐敗が発生するので、絶対に行わない。

イ ヒオモン水溶剤

ヒオモン水溶剤2,000倍（展着剤不要）は、きおうでは8月10～15日頃、つがるでは8月20～25日頃に単用散布する。使用回数は1回、10a当たり散布量は300～600ℓとし、薬液が葉先から滴り始める程度に、樹全体に散布する。葉摘みは散布当日から始めてもよい。散布後4日間は収穫できないので注意する。

なお、ヒオモン水溶剤を使用した果実の熟度の進みや日持ちは、無処理の果実と同等である。

(4) つがる等の着色手入れ

高温・晴天が続く場合は、果実の日焼けを起こさないよう注意する。

早くからの強い葉摘みは、鮮明な色が着かないばかりか食味の低下につながる
ので、葉摘みは着色がやや進んだ頃から始める。

(5) 病害虫対策

ア 黒星病対策

秋の二次感染や翌年の感染源を減らすために、発病葉・発病果は見つけ次第
摘み取り、処分する。

イ 薬剤散布

「8月半ば」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で8月15～16日頃に行う。

散布予定日に降雨が予想される場合には、事前散布に徹する。また、散布む
らが生じないように十分な量を丁寧に散布する。

薬剤の散布にあたっては、収穫前日数や年間使用回数などに注意する。

無袋栽培では毎回シンクイムシ類の防除剤を使用する。

「8月半ば」の薬剤散布

地 域	時 期	薬 剤 名 と 倍 数	散布量 /10 a
黒 石	8月15	アリエッティC水和剤 800倍	5 0 0 ℓ
弘 前	～16日頃	又はダイパワー水和剤 1,000倍	
三 戸		又はベフラン液剤25 1,500倍	

①炭疽病の発生が例年多い園地で、ベフラン液剤25を選択する場合は、オーソ
サイド水和剤80の800倍も散布する。

②ベフラン液剤25やアリエッティC水和剤は、殺虫剤又は殺ダニ剤と組み合わ
せる場合、最後に調合する。

ウ 斑点落葉病対策

急増が懸念される場合は、ポリオキシシンAL水和剤1,000倍も使用する。ポリ
オキシシンAL水和剤は、薬剤耐性の恐れがあるので、連続散布を避ける。

エ 炭疽病対策

りんご園周辺のニセアカシアやくるみ類などは伝染源となるので注意する。
また、発病果は見つけ次第摘み取り、土中に埋める。

オ 腐らん病対策

胴腐らんは見つけ次第、泥巻き法か削り取り法で治療する。また、胴腐らんの
治療部を再点検し、再発している場合は直ちに適切な処置を行う。

カ シンクイムシ類対策

被害果は見つけ次第、摘み取り7日以上の水漬けなど適切な処置をする。もも、なし、日本すもも、プルーン、マルメロなども発生源となるので、適切な管理を行う。

キ ハダニ類対策

ハダニ類の発生種を確認し、発生動向を見極めながら適正な防除を行う。

1葉当たり2個体以上あるいは寄生葉率50%以上を目安に散布する。

殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、年2回以内使用のものでも年1回の使用とする。

サンマイト水和剤とバロックフロアブルは、リンゴハダニだけの、マイトコーネフロアブルは、ナミハダニだけの適用なので、薬剤の選択には十分注意する。

リンゴハダニとナミハダニに対する殺ダニ剤の適用表

薬 剤 名	年間使用回数	リンゴハダニ	ナミハダニ
サンマイト水和剤	1回	○	×
バロックフロアブル	2回以内	○	×
エコマイト顆粒水和剤	1回	○	○
オマイト水和剤	1回	○	○
コロマイト乳剤	1回	○	○
マイトコーネフロアブル	1回	×	○

○：適用する、×：適用しない

ク クワコナカイガラムシ対策

発生が多いところでは、8月中旬（成虫の産卵前）にバンド巻きを行う。

被害が多く、袋の汚染が多い場合は、早めに除袋し被害の軽減を図る。

(6) 徒長枝の整理、支柱入れ、枝吊り

病害虫の発生源を少なくし、樹冠内部に十分日光を入れ、薬液の到達をよくするために、不要な徒長枝を切り取る。

また、果実が大きくなるにつれて枝が下がり、重なり合ってくるので、支柱入れや枝吊りを行う。

ただし、高温・晴天が続く場合は、果実の日焼けを起こさないように、徒長枝の整理、支柱入れ、枝吊りなどは控える。

(7) 風害防止対策

台風等による強風に備え、防風網やわい性台樹の結束などについて点検し、補強や取り替えを行う。また、幹や主枝などに空洞が生じている樹や腐らん病の被害、雪害を受けた枝や樹は、支柱で支え、縄などで補強する。幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

(8) ビターピット防止対策

樹勢が強く、果実肥大が旺盛な園地では、ビターピットが発生しやすいので下表によりカルシウム剤の果面散布を行う。

カルシウム剤は、丁寧に散布する。なお、樹勢の弱い樹や高温時あるいは干ばつ時の散布は、薬害発生（葉縁褐変）の恐れがあるので避ける。

カルシウム剤の散布方法

資材名	散布時期 (散布間隔)	資材形状	水100ℓ当たり 使用量 (倍数)	散布回数 (回)
スイカル	6月上旬～9月中旬 (10日以上)	粉状	330 g (300倍)	3～5
セルバイン	6月上旬～9月上旬 (10日以上)	粉状	250 g (400倍)	3～5
アグリメイト	6月上旬～9月中旬 (15日以上)	液状	200ml (500倍)	5

(9) 苦土（マグネシウム）欠乏対策

欠乏症がみられたら、下表により葉面散布用の精製硫酸マグネシウム（グリーントップ又はグリーントップ70）を7～10日おきに単用で散布する。散布は症状の進行が止まるまで1～4回程度行う。

なお、苦土欠乏は、土壌の酸性化が原因なので、土壌診断を行い自園の状況を把握する。

（分析の依頼先：JA全農あおもり土壌分析センターか最寄りのJA等）

資材名	マグネシウム 含量	水100ℓ当たり 使用量
グリーントップ	16%	2,000 g
グリーントップ70	23%	1,400 g

3 一般作業

- (1) 腐らん病対策 (2) 草刈り (3) 極早生種の収穫
(4) 鳥害防止対策

4 今後の作業予定

- (1) 見直し摘果 (2) 「8月末」の薬剤散布 (3) 早生種の収穫
(4) すず斑病・すず点病対策 (5) 支柱手直し (6) 草刈り
(7) 風害防止対策

《 農薬使用基準の遵守 》

青森県農薬危害防止運動期間中（5月1日～8月31日）！

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更される農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用する必要があるため、変更の有無を次のWebサイトで確認してから使用する。

○農林水産省「農薬情報」

http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/

○(独)農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

○青森県農業情報サービスネットワーク「アップルネット」農薬情報

<https://www.applenet.jp/>

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを！！ 》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

◎果樹共済

「果樹共済」はりんご・ぶどう・ももを対象として、災害による収穫量の減少、樹体の損傷に対する損害を補償します。

令和3年産に向けた、りんごの「総合一般方式」の申込期間は6月5日～7月5日となっていますので、お忘れなく！

なお、暴風雨等の特定の災害に限定して補償する「特定危険方式」は令和3年産までで廃止されることになっています。令和4年産からは病虫害も対象となる「総合方式」または、「農業経営収入保険」への切り替えが必要です。

◎農業経営収入保険

「農業経営収入保険」は、災害による減収に加え、市場価格の低下など農業者の経営努力では回避できない理由により販売収入が減少した場合も補償の対象になる総合的なセーフティネットです。新型コロナウイルス感染症の影響により、収入が減少した場合も補償の対象となります。（青色申告の実施が要件）

※詳しくは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

《 ポジティブリスト制への対応 》

農薬の飛散により、周辺住民及び作物に被害を及ぼすことのないように、散布情報の提供・交換等地域が連携し、農薬飛散低減対策に留意して散布を行う。

《 農作業安全を心がけましょう 》

機械を使って作業を行う際は、焦らず、急がず、慎重に、を基本に事故のないよう十分注意しましょう。はしごの上で作業する時は、足場がしっかり安定しているか確認するとともに、天板の上には乗らないようにしましょう。園地に出かける際は、携帯電話を必ず持参し、家族などに行き先や帰宅時間を伝えてから出かけるようにしましょう。

《 「あおり9」の生果実流通 》

現在、「あおり9」は「彩香」の商標名で販売されていますが、令和7年10月27日で商標の使用契約が満了となり、「彩香」を使用できなくなります。ついては、令和7年10月27日以降は、「あおり9」で販売してください。

《 《 参観デーのお知らせ 》 》

りんご研究所（黒石市）	9月 3日（木）	9時～15時
	～4日（金）	9時～15時

りんご研究所県南果樹部（五戸町）	9月17日（木）	9時～15時
------------------	----------	--------

※新型コロナウイルス感染症対策として、入場時の氏名・連絡先の記載と検温（37.5℃以上は入場をお断りします）、マスクの着用にご協力お願いいたします。

熱中症予防には、こまめな休憩と水分の補給をしっかりと行いましょう！

次回の「りんご生産情報」第10号は8月28日（金）発表の予定です。

連絡先	：	りんご果樹課生産振興グループ
電話番号	：	017-722-1111代表
		内線 5097, 5092
		017-734-9492直通